KENWOOD

特定小電力トランシーバー

UBZ-EA20R

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる場所に保管してください。

本機は日本国内専用のモデルですので、国外で使用することはできません。

株式会社 JVCケンウッド

© B62-2408-20
09 08 07 06 05 04 03 02

目次

その他のメニュー設定

その他

説明上の注釈表記について

このマークが付いた注釈は、使用上での注意事項が記載されています。

このマークが付いた注釈は、使用上での補足事項が記載されています。

安全上のご注意

絵表示について

この「安全上のご注意」には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。ご使用の際には、次の内容 (表示と意味) をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

⚠危険	この表示を無視して誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠警告	この表示を無視して誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取扱をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意 (危険・警告を含む) を促す内容があることを告げるものです。図の近くに具体的な注意内容を示しています。

⃠記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容 (左図の場合は分解禁止) を示しています。

●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な指示内容 (左図の場合は電源プラグを AC コンセントから抜く) を示しています。

お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合、またはこの製品の使用によって受けられた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

⚠危険

使用環境・条件

引火、爆発の恐れがありますので、プロパンガス、ガソリン等の可燃性ガスの発生するような場所では使用しないでください。

運転しながら本機を操作(交信)するのはおやめください。安全な場所へ車を停車させてから操作 (交信) してください。

充電池の取扱について

充電池は以下のことをお守りいただけない場合、けがや電池の漏液、発火、発熱、破裂させる原因となります。

充電池を電磁調理器の上に置いたり、電子レンジや高圧容器に入れないで下さい。

充電温度範囲は、0℃～ 40℃です。この温度範囲以外では充電しないでください。

専用充電台以外では充電しないでください。

本機以外の機器に取付けないでください。

火の中に投入したり、加熱したり、ハンダ付けしたり、分解しないでください。

端子を針金などの金属類でショートさせないでください。また、ネックレスやヘアピンなどの金属物と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。

液が目に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずに、すぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

使用環境・条件

電子機器 (特に医療機器) の近くでは使用しないでください。電波障害により機器の故障･誤動作の原因となります。

空港施設、鉄道施設、港湾、病院などの管理区域に指定されている場所での無線機器の使用については、各施設管理者にお問い合わせ、ご確認した上でご使用ください。

本機を使用できるのは、日本国内のみです。国外では使用できません。

AC アダプターの取扱について

AC100V 以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

タコ足配線はしないでください。過熱・発火の原因となります。

濡れた手で電源プラグに触れたり、電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

電源プラグは AC コンセントに確実に差し込んでください。電源プラグの端子に金属などが触れると、火災･感電･故障の原因となります。

電源プラグの端子にほこりが付着したまま使用しないでください。ショートや過熱により火災や感電の原因になります。

使用方法について

機械に巻き込まれる恐れのある場所では、スピーカーマイクロホン等のケーブルを首にかけないでください。怪我の原因となります。

本機の近くに小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。

本機は調整済みです。分解・改造して使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

アンテナやストラップを持って、無線機を振り回さないでください。人に当ってけがを負わせたり、物に当って無線機が破損することがあります。

異常時の処置について

内部に水や異物が入った場合や、落としたり、ケースを破損した場合、または異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがするなどの、異常な状態になった場合は、そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

落下などにより破損した部品には直接触らないでください。怪我の原因となります。

煙が出たら、すぐに電源スイッチを切り、充電池を外し、充電中は電源プラグを AC コンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認してから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

雷が鳴り出したら、安全のため早めに電源スイッチを切り、充電中は電源プラグを AC コンセントから抜いて、ご使用をおひかえください。

保守・点検

本機のケースは開けないでください。感電・けが・故障の原因となります。内部の点検・修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

お客様による修理は、危険ですから絶対におやめください。

注意

使用環境・条件

テレビやラジオの近くで使用しないでください。電波障害を与えたり、受けたりすることがあります。

直射日光が当たる場所や車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色したり、火災の原因となることがあります。

ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

結露した場合は、自然乾燥させるか、長い時間同じ環境に置くなどして、結露がなくなってからご使用ください。

AC アダプターの取扱について

AC アダプターのコードを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて火災・感電・故障の原因となることがあります。

ACアダプターを抜くときは、必ずプラグを持ってください。コードを引っぱると、コードが傷つき、火災・感電・故障の原因となることがあります。

使用方法について

アンテナを誤って目にささないようにご注意ください。

ベルトクリップに指をはさまないようにご注意ください。

スピーカー / マイク端子には指定されたオプション以外は接続しないでください。故障の原因となることがあります。

乾燥した部屋やカーペットを敷いた廊下などでは静電気が発生しやすくなります。このような場所では、イヤホンを使用した時に静電気で耳の皮膚に電気ショックを感じることがあります。静電気が発生しやすい場所ではイヤホンを使用しないか、スピーカーマイクロホンをご使用ください。

長期間使わないときは、電源スイッチを切り、乾電池や充電池を外してください。

お手入れの際は、電源スイッチを切り、乾電池や充電池を外してください。

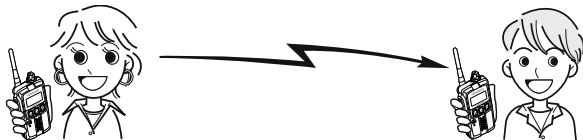
イヤホンを使用するときは、電源を入れる前に音量ツマミを下げてください。聴覚障害の原因となることがあります。

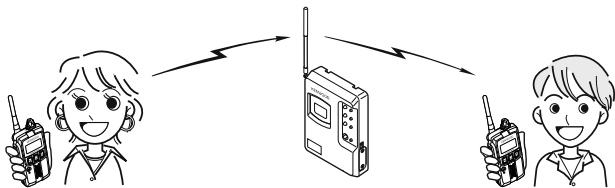
水滴が付いたら、乾いた布でふき取ってください。汚れのひどいときは、水で薄めた中性洗剤をご使用ください。シンナーやベンジンは使用しないでください。

運用モードについて

本機は 2 つの運用モードを選択できます。

■ **シンプレックスモード (SP)**

直接トランシーバー同士で通話するモードです。20 チャンネルに対応し、従来の 9 チャンネルと 11 チャンネルのどちらも使用できます。

■ **レピーターアクセスモード (セミデュプレックスモード：dP)**

レピーター (中継器) を介して通話するモードです。安定して通話できる範囲が広がります。27 チャンネルに対応し、従来の 9 チャンネルと 18 チャンネルのどちらも使用できます。

● 通話のできる距離は地形や環境によって大きく異なりますが、目安は次のとおりです。
建築物が多い地域や、自動車などの金属物体の周囲では、通話のできる距離が短くなります。

- ◆ 市街地：100 ～ 200m
- ◆ 見通しのよい場所：1 ～ 2km

- 本機単体は IP-55 規格に準拠した製品です。多少の水がかかっても問題はありませんが、蛇口からの水をかけたり、水の中に落としたりすると故障の原因になりますのでご注意ください。なお、スピーカー / マイクロホン端子カバーを外したり、電池カバーが正しく閉まっていない場合は防水規格に準拠できなくなります。
  - ◆ IP-55(防塵・防噴流形):
    有害な影響が発生するほどの粉塵が中に入らない。あらゆる方向からの噴流水による有害な影響がない。
- スピーカー / マイクロホン端子にオプションを接続していて、付属のマイクプラグ固定金具で固定している場合は IP-54 規格に準拠します。

  なお、オプション自体には防水性能はありませんので、水がかからないように注意してください。（イヤホン（HS, UHS シリーズ）を本機に単体で接続して使用する場合は、防塵 / 防水にはなりません。）
  - ◆ IP-54(防塵・防沫形):
    有害な影響が発生するほどの粉塵が中に入らない。あらゆる方向からの飛沫による有害な影響がない。
- 激しい振動、雨、粉塵がある環境では使用しないでください。
- テレビやラジオ、パソコンなど電子機器の近くで使用すると、電波妨害を与えたり、受けたりすることがあります。これらの機器からは離れてお使いください。

電波法に関するご注意

- 本機裏面の技術基準適合証明ラベルをはがさないでください。使用できなくなります。
- 本機を分解したり、改造して使用することは電波法により禁止されています。
- 他人の通信を聞いてこれを漏らしたり、窃用することは電波法により禁止されています。

本機の付属品

付属品が全て揃っていることをご確認ください。

ベルトクリップ..1
ベルトクリップ取付用ネジ 2
マイクプラグ固定金具 1
保証書.. 1
ケンウッド全国サービス一覧 1
取扱説明書（本書）...1

電池について

別売品の充電池 UPB-7N、または市販の単 3 形アルカリ乾電池、単 3 形 eneloop を使用してください。

使用する電池の種類設定

使用する電池の種類によって、設定を変えてください<メニュー設定「バッテリー種別設定」《 p.41》>。お買い上げ時の設定は「アルカリ乾電池」です。

電池の使用可能時間の目安

■ アルカリ乾電池使用時

使用条件	バッテリーセーブ機能	
	ON(初期値)	ECO
内蔵スピーカー使用時	40 時間	48 時間
外部スピーカー使用時 （イヤホンマイク EMC-3）	64 時間	72 時間

■ 充電池 UPB-7N 使用時

使用条件	バッテリーセーブ機能	
	ON(初期値)	ECO
内蔵スピーカー使用時	39 時間	46 時間
外部スピーカー使用時 （イヤホンマイク EMC-3）	54 時間	59 時間

※　**測定条件：** 送信 6 秒 / 受信 6 秒 / 待ち受け 48 秒の繰り返し（送信出力 10mW 、室温 25℃）

※　eneloop(1900mAh) 使用時の電池の使用可能時間の目安は、充電池 UPB-7N 使用時と同等です。

※　電池の使用可能時間は周囲温度や音量、電池の種類などの使用条件により変動します。

電池の残量表示について

電池の残量の目安を 3 段階で表示します。

1 個点灯になると、警告音が「ピーピーピーピー」と 4 回鳴り、バッテリー容量が低下していることをお知らせします。早めに電源を OFF にして新しい単 3 形アルカリ乾電池と交換するか、充電池を充電してください。

3個点灯
2個点灯
1個点灯

バッテリーセーブについて

電池の消耗を防ぐ機能です。待ち受け状態で数秒間キー操作がないと、この機能が働きます。信号を受信するか、キー操作をするとバッテリーセーブは解除されます。

※　バッテリーセーブはモニター中やオートチャンネルセレクト中は動作しません。

充電池の特性について

- 充電／放電を繰り返すと、使用できる時間が徐々に短くなります。
- 使用せずに置いておくだけでもわずかながら充電池の劣化が進みます。
- 高温状態で充電／放電したり、トランシーバーを使用すると寿命が短くなります。また、高温状態での保管も劣化の進行が早まります。車の中に置いたままにしたり、暖房機の上に置いたりしないでください。
- 充電池を高温状態で放置すると使用できなくなります。充電池が冷えてから使用してください。冷えても使用できない場合は、一度充電してください。使用できるようになります。
- 長期間保存後は、バッテリー容量が低下していることがあります。必ず充電してからご使用ください。

電池に関するご注意

電池は、使い方を誤ると破裂や破損、液もれ、故障の原因となります。必ず次の注意事項を必ずお守りください。

- 指定以外の電池は使用しないでください。
- 火の中へ投げ込まないでください。
- 長時間使用しないときは、電池を本機から取り出してください。
- 電池の端子をショートさせないでください。
- 電池を分解しないでください。

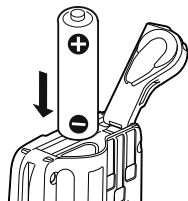
電池を入れる

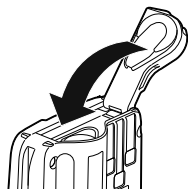
1 電池カバーを開ける

ロック板を矢印の方向にスライドさせて、ロックを解除して電池カバーを開けます。

電池カバー
ロック板

2 電池を入れる

単 3 形アルカリ乾電池、または充電池を下図のように入れます。

3 電池カバーを閉める

ロック板を矢印の方向にスライドさせて、ロック板が「カチッ」と音がするまで電池カバーを閉めます。

- 電池を取り出すときは手順 2 で電池を取り出します。

使用済み充電池の取扱注意事項

- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。
リサイクルにご協力お願いいたします。

eneloopのご使用について

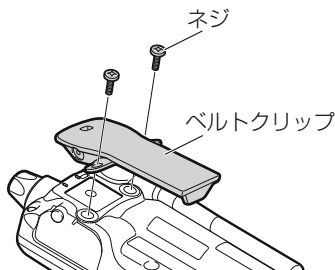
- eneloop を充電する際は、eneloop 専用の充電器をお使いください。
- eneloop をご使用の際は、eneloop の取扱説明書をよくお読みください。
- eneloop の故障や不具合については三洋電機株式会社へお問い合わせください。
- エネループおよび、eneloop は三洋電機株式会社の登録商標です。

アンテナを立てる

電波が弱いときなど、必要に応じてアンテナを垂直に立てて使用してください。

- 電波状態の確認は《「電波メーターのレベル表示について」☛ p23》をご覧ください。

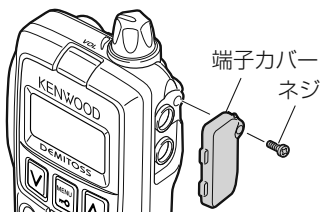
ベルトクリップの取り付け

ベルトクリップと一緒に同梱されている取り付けネジ (M3 × 4mm) を使用して取り付けます。
ベルトクリップを本体のネジ穴に合わせて、ネジで留めます。

◆ ネジには緩み防止剤が塗布してありますが、何度も脱着すると、ネジが緩みやすくなります。

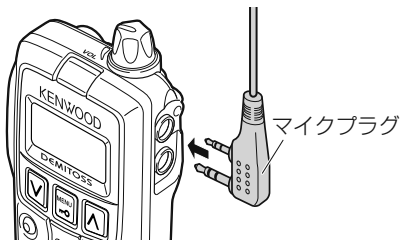
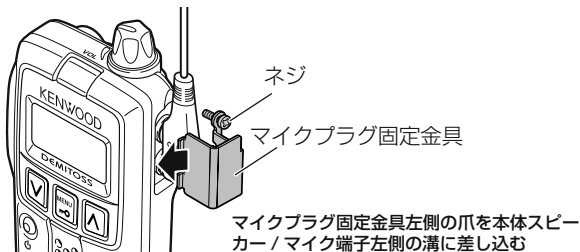
オプションの接続

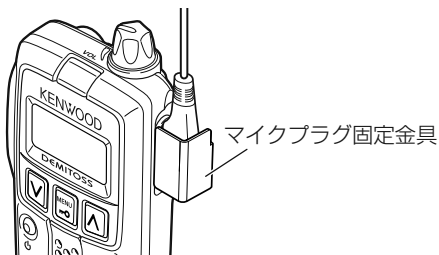
イヤホン付マイクロホン、スピーカーマイクロホンやヘッドセット等を取り付けるときは、接触不良を防ぎ、防水性能を維持するため、必ずマイクプラグ固定金具を取り付けてください。

- **オプションを接続するときは、電源を OFF にしてください。**
- **マイクプラグ固定金具を取り付けた時は、本機の防塵 / 防水性能は IP54 になります。**

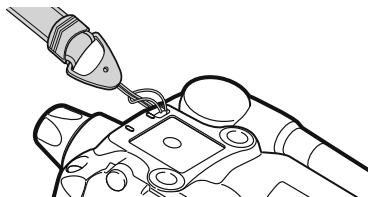
1 端子カバーを外す

プラスドライバー(# 1)でネジを左方向に回して取り外し、端子カバーを外します。

◆ 取り外した端子カバーとネジは無くさないようご注意ください。

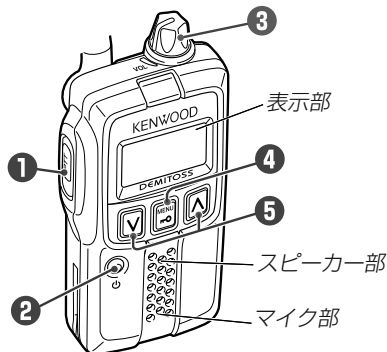
2 オプション製品のマイクプラグをスピーカー/マイク端子に接続する

3 マイクプラグ固定金具を取り付ける

4 ネジでマイクプラグ固定金具を本体に固定する

プラスドライバー(# 1)でネジを右方向に回し確実に締め付けて、下図のように固定してください。

◆ 断線防止のため、マイクプラグを取外すときは、プラグ部を持って取り外してください。

ストラップの取り付け

別売品のネックストラップ SB-4 や市販品のストラップを取り付けるときは、トランシーバー背面上部のストラップ用穴を使用してください。

◆ ストラップを持って本機を振り回したりしないでください。故障やけがの原因となります。

各部の名称と機能

各キーの機能説明

❶【PTT】送信キー

送信するときに押します。離すと待ち受け状態になります。

❷【⏻】キー

押す(0.5 秒以上)ごとに電源が ON/OFF します。

❸ 音量ツマミ

右に回す：音量を大きくします。

左に回す：音量を小さくします。

❹【MENU】キー

■ 押すと簡易メニューを表示します。《☛ p.24》

■ 押しながら電源を ON にすると、メニューを表示します。《☛ p.26》

❺【∧】【∨】キー

【∧】：チャンネル番号が上がります。

【∨】：チャンネル番号が下がります。

● メニューのオートチャンネルセレクトキー設定「SCn」が「on(ON)」のときは、1 秒以上押すとオートチャンネルセレクトを開始します。《☛ p.30》

表示部のアイコン説明

文字表示部

文字表示部

表示	説明	関連ページ
	電池の残量(目安)を表示します。	13
送	送信中に表示します。	22
受	受信中に表示します。	
	受信中の電波状態を表示します。	23
秘	ボイススクランブル機能が ON に設定されているときに表示します。	24
VOX	VOX レベルが 1 ～ 5 に設定されているときに表示します。	36
L	ローパワー送信機能が働いているときに表示します。	46
	キーロック機能が働いているときに表示します。	35
	バッテリーセーブ機能が ECO に設定されているときに表示します。	39

基本通信操作

初期設定のシンプレックスモードで通信する場合の手順です。

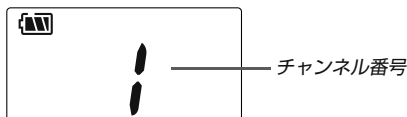
- レピーターアクセスモードでの通信操作は《「運用モードの設定」☛ p.28》をご覧ください。

1 【⏻】を押す（0.5秒以上）

電源が ON になり、チャンネル番号が表示されます。

2 音量ツマミを半分ぐらい右に回す

3 【∧】【∨】を押して通信するチャンネル番号に切り替える

【∧】を押すとチャンネル番号が上がります。
【∨】を押すとチャンネル番号が下がります。

- 【∧】または【∨】を押し続けると、押している間連続してチャンネル番号が切り替わります。

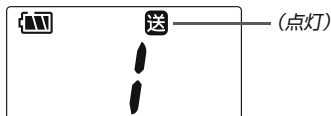
9チャンネル機と交信する場合

h1 ～ h9 に合わせます。

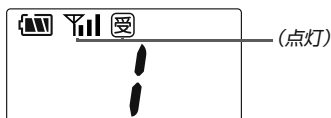
11チャンネル機と交信する場合

1 ～ 11 に合わせます。

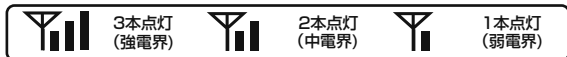
4 【PTT】を押しながら話す

「送」が点灯し、送信状態になります。

マイク部から口を5cm ぐらい離してお話しください。

5 話終わったら、【PTT】から指を離す

待ち受け状態になります。
受信すると「受」と電波メーターが点灯します。

音量ツマミを回し好みの音量に調整してください。

電波メーターのレベル表示について

電波状態の目安を 3 段階で表示します。

6 手順4と5の操作を繰り返して、通信する

トランシーバーを使用しないときは【⏻】を押し(0.5 秒以上)電源を OFF にします。

- ◆ スピーカー / マイク端子にオプションを接続すると、プラグインミュート機能が働いて内蔵スピーカーが無効になります。スピーカー / マイク端子からオプションを外すと内蔵スピーカーが有効になります。
- ◆ 設定したチャンネル番号がすでに使用されている場合、相手の方と共に、他のチャンネル番号を設定してください。
- ◆ トランシーバー間の距離が近い（10m 以内）と「h7 と 1」、「h8 と 2」、「h9 と 3」のチャンネル間で混信をおこす場合があります。多数のグループが近距離で運用する場合は、同一バンド (h1 ～ h9 または 1 ～ 11 チャンネル) 内で運用するか、グループ番号を設定して混信を軽減してください。

簡易メニュー

グループ番号とボイススクランブル機能の設定をします。

グループ番号の設定

他のグループと同じチャンネルで交信している場合、お互いの声が混ざり合って通信しづらくなります。仲間同士でグループ番号を設定しておくと、混信がなくなって快適に通話ができます。

1 【MENU】を押して「GrP」を選ぶ

2 【∧】または【∨】を押す

グループ番号が切り替わります。

設定範囲

oF(OFF)、1 ～ 38

- 【∧】または【∨】を押し続けると、押している間連続してグループ番号が切り替わります。

3 【PTT】を押す

または 10 秒間何もキーを操作しないと、簡易メニューが終了します。

- グループ番号が「oF(OFF)」の時は、【MENU】を押しても終了します。

ボイススクランブル機能の設定

グループ番号を設定するとボイススクランブル機能が使用できます。ボイススクランブル機能を ON に設定していないトランシーバーでは会話が聞き取れなくなります。

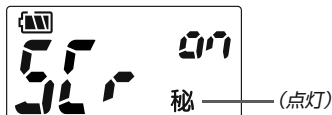
1 【MENU】を押して「SCr」を選ぶ

2 【∧】または【∨】を押す

設定値を選択します。

oF(OFF)	ボイススクランブル機能を OFF します。
on(ON)	ボイススクランブル機能を ON します。

● 「on(ON)」に設定すると「秘」が点灯します。

（点灯）

3 【PTT】を押す

または 10 秒間何もキーを操作しないと、簡易メニューが終了します。

● 【MENU】を押しても終了します。

◆ 他のグループが同じチャンネル番号を使用している場合、音声は聞こえなくても受信状態になり、「受」と電波メーターが点灯します。このときに【PTT】を押しても「プー」と鳴って送信できません。

◆ 運用モードをレピーターアクセスモードに設定しているときは、チャンネル番号とグループ番号はレピーターの設定と同じにします。

◆ チャンネル番号、グループ番号、ボイススクランブルの設定は通話する相手の方と設定を合わせてください。全ての設定が合っていないと通話ができません。

◆ グループ番号とボイススクランブル設定が一致した場合、第三者でも通信を傍受できます。

◆ グループ番号を OFF にすると、ボイススクランブル機能も OFF になります。

◆ バッテリーセーブ機能が働いているときに、同じグループを受信すると、バッテリーセーブ機能は自動的に解除されますが、違うグループを受信している場合は、バッテリーセーブ機能は解除されません。このときに受信信号の確認動作を繰り返すため、「受」が点滅表示することがあります。

メニュー

各機能の設定をします。

メニューの操作

1 【⏻】を押し、一度電源をOFFにする

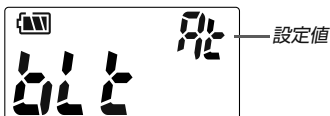
2 【MENU】を押しながら【⏻】を押し、電源をONする

メニューの設定画面が表示されます。

3 【MENU】を押して、設定項目を選択する

押すごとに設定項目が切り替わります。

4 【∧】または【∨】を押す

設定値を選択します。

5 【MENU】を押す(1秒以上)

メニューが終了します。

- 【PTT】を押しても終了します。

設定項目一覧

表示	設定項目	設定値	初期値	参照ページ
SAv	バッテリーセーブ	oF/on/EC	on	39
bLt [1]	バックライト動作	oF/At/Ay/on	At	42
bEP [1]	ビープ音	oF/on	on	44
mod	運用モード	SP/dP	SP	28
SCn [2]	オートチャンネルセレクトキー（本機）	oF/on	oF	32
tPw [3]	送信パワー	L/H	H	46
C--	チャンネル非表示	oF/on	oF	43
SqL	スケルチ	oF/on	on	45
t-i	送信禁止	oF/on	oF	47
vo [4]	VOX レベル	oF/1/2/3/4/5	oF	37
vdy [4,5]	VOX 遅延時間	03/05/10/15/30	05	38
PHd [4]	PTT ホールド	oF/on	oF	48
r-t [4,6]	PTT ホールド自動復帰	oF/on	oF	49
rEm	リモコンキー	oF/on	oF	50
APo	オートパワーオフ	oF/on	oF	40
bty	バッテリー種別	Ab/rC	Ab	41

1　「SAv」が「EC」の場合、「bLt」と「bEP」は選択できません。

2　「mod」が「dP」の場合、「SCn」は選択できません。

3　「mod」が「SP」の場合、「tPw」は選択できません。

4　「t-i」が「on」の場合、「vo」、「vdy」、「PHd」、および「r-t」は選択できません。

5　「vo」が「oF」の場合、「vdy」は選択できません。

6　「PHd」が「oF」の場合、「r-t」は選択できません。

運用モードの設定

通信方法により運用モードを設定してください。

シンプレックスモード

レピーター(中継器)を介さずに直接トランシーバー同士で通信するモードです。

- シンプレックスモードモードでの通信操作は《「基本通信操作」☛ p.22》をご覧ください。

レピーターアクセスモード(セミデュプレックスモード)

レピーター(中継器)を介して通信するモードです。

1 【⏻】を押し、一度電源をOFFにする

2 【MENU】を押しながら【⏻】を押し、電源をONする

設定項目選択画面が表示されます。

3 【MENU】を押して、「mod」を選択する

4 【∧】または【∨】を押してモードを選択する

SP	シンプレックスモードで通信します。
dP	レピーターアクセスモードで通信します。

5 【MENU】を押す(1秒以上)

メニューが終了します。

レピーターアクセスモード

最初にレピーターに接続してから、相手を呼び出して通信します。

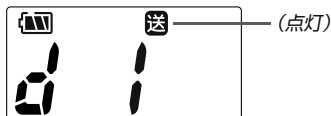
- 双方のチャンネルとグループ番号をレピーターのチャンネルとグループ番号に合わせておきます。
- レピーターアクセスモードで通信している時は、チャンネル番号の先頭に「d」が表示されます。

1 【PTT】を押し続ける

レピーターアクセスを確認します。

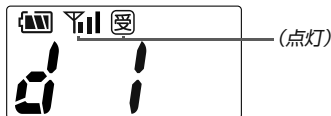
- アクセス音 (ピポッ) が鳴ったら【PTT】を押したままで、手順 2 へ移ってください。
- エラー音（プッププッププッ…）が鳴ったら手順 1 の操作を繰り返します。

2 【PTT】を押しながら話す

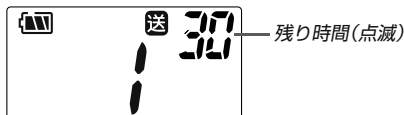
「送」が点灯し、送信状態になります。

マイク部から口を 5cm ぐらい離してお話しください。

- アクセスが外れたら、再度手順 1 から操作してください。

3 話終わったら、【PTT】から指を離す

待ち受け状態になります。受信すると「受」と電波メーターが点灯します。

4 音量ツマミを回して好みの音量に調整する

手順 2 と 3 の操作を繰り返して、通話します。

通信時間の制限について･･･

本機の 1 回の通信時間は、送信・受信を合わせて 3 分間です。通信終了の 30 秒前になると、表示部の数字が点滅しながらカウントダウンを始めます。10 秒前になると｢ピッ｣と予告音が鳴り、3 分を経過すると送信禁止音(プー)とともに送信を停止し、待ち受け状態に戻ります。続けて通信するときは、送信停止 2 秒後に【PTT】を押して相手を呼び出してください。

- レピーターアクセスモードで送信パワーをローに設定《｢送信パワー設定｣ ☛p.46》、レピーター(中継器)の送信出力をローに設定している場合は、通信時間の制限はありません。

オートチャンネルセレクト

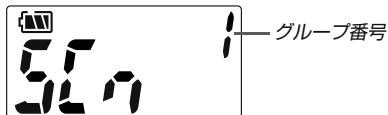
シンプレックスモードでの運用時に使用できる機能です。自動的にチャンネル内をスキャンして、グループ番号が一致したチャンネルを見つけるとそこで停止して受信する機能です。スキャン中に【PTT】を押して送信すると、同じグループ番号の空いているチャンネルが設定され送信します。

- オートチャンネルセレクトを使用する前に以下の設定を確認します。
  - ◆ グループ番号の設定：1～ 38《｢GrP｣☛ p.24》
  - ◆ オートチャンネルセレクトキー設定：｢on(ON)｣《｢SCn｣☛ p.32》（本機の【∧】、【∨】を使用するとき）
  - ◆ リモコンキー設定：｢on(ON)｣《｢rEm｣☛ p.50》（オプションのリモコン対応マイクロホンを使用するとき）

オートチャンネルセレクトを使う

1 本機の【∧】、【∨】、またはオプションのリモコン対応マイクロホンの【2】を1秒以上押す

「SCn」と表示され、スキャンを開始します。

SCn 1 ― グループ番号

2 【PTT】を2 ～3秒押し続ける

空いているチャンネルで 10 秒ほど停止します。停止中に【PTT】を押したまま通常よりゆっくり呼びかけます。
呼びかけが終わったら【PTT】から指を離し、相手の方がそのチャンネルで応答してくるのを待ちます。

3 「受」が消えてから、【PTT】押して応答する

オートチャンネルセレクトを解除する

4 本機の【∧】、【∨】、【MENU】押す。または、オプションのリモコン対応マイクロホンの【2】を1秒以上押す

表示しているチャンネルで待ち受け状態になります。

- ◆ 10 秒以内に応答してください。10 秒以上送信・受信がないと、スキャンを再開します。
- ◆ オートチャンネルセレクト中にモニター機能《☛ p.33》を ON にするとスキャンが一時停止して、チャンネルをモニターできます。
- ◆ 運用モードの設定《「mod」☛ p.28》が「dP」のときは、オートチャンネルセレクトはできません。

オートチャンネルセレクトキー設定

この機能を「on(ON)」に設定すると、本機の【∧】、【∨】でオートチャンネルセレクトができます。

1 メニューの設定項目選択画面にする

《「メニューの操作」☛ p.26》

2 【MENU】を押して「SCn」を選択する

3 【∧】または【∨】を押して、設定値を選択する

oF(OFF)	本機の【∧】、【∨】ではオートチャンネルセレクトは動作しません。
on(ON)	本機の【∧】、【∨】でオートチャンネルセレクトのキー動作をします。

4 【MENU】を押す(1秒以上)

メニューが終了します。

◆ 運用モードの設定《「mod」☛ p.28》が「dP」のときは、オートチャンネルセレクトキーは設定できません。

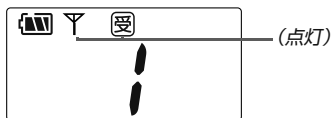
モニター

電波が弱いときにスケルチ(雑音消去回路)を強制的に開き、信号の状態を一時的にモニターすることができます。また、音量を調整するときにも使用できます。この機能は、オプションのリモコン対応マイクロホンで操作します。

- リモコンキー設定《「rEm」☛ p.50》を「on(ON)」に設定しておきます。

モニターする

1 オプションのリモコン対応マイクロホンの【1】を押す

押している間だけスケルチが開いて「受」と電波メーターが点灯します。

- 信号を受信していないときは“ザー”という雑音が出ます。音量レベルを調整するときの目安にもできます。

モニターを解除する

2 オプションのリモコン対応マイクロホンの【1】を離す

スケルチが閉じて、「受」と電波メーターが消灯します。

◆ モニター機能を使用するときは、音量レベルに注意してください。特にイヤホンを使用しているときは、“ザー”というノイズを大きい音量で聞くと耳に障害を受けることがあります。

コールトーン呼び出し

相手を電話の呼び出し音のような音(コールトーン)で呼び出すことができます。各コールトーンは、操作時に設定されている音色で鳴り、確認することができます。

コールトーン1 で呼び出すとき

【PTT】を押したまま【∨】を押す

押している間コールトーン 1 が送信されます。

コールトーン2 で呼び出すとき

【PTT】を押したまま【∧】を押す

押している間コールトーン 2 が送信されます。

コールトーン3 で呼び出すとき

- リモコンキー設定《「rEm」☛ p.50》を「on(ON)」に設定しておきます。

オプションのリモコン対応マイクロホンの【3】を押す

押している間コールトーン 3 が送信されます。

- 【PTT】を押したままリモコン対応マイクロホンの【3】を押しても送信されます。

◆ レピーターアクセスの動作開始時は、レピーターアクセスが成功するまでコールトーンは送信されません。

◆ キーロックが動作しているときもコールトーンを送信することができます。

キーロック

間違えてチャンネル番号やグループ番号を変えないように、キーをロックしておくことができます。

キーロックをする

【MENU】を1秒以上押す

キーロックが動作します。キーロック中は「⊷」が点灯します。

キーロックを解除する

【MENU】を1秒以上押す

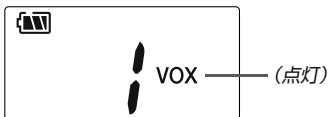
キーロックが解除され、「⊷」が消灯します。

キーロック中でも以下のキー操作はできます。

- 【⏻】キー（電源ON/OFF)
- 【⏻】+【MENU】(メニューモード)
- 【∧】+【∨】+【MENU】(オールリセット)
- 【PTT】キー（送信）
- 【PTT】+【∨】キー（コールトーン1送出）
- 【PTT】+【∧】キー（コールトーン2送出）
- オプションのリモコン対応マイクロホンの【3】(コールトーン3送出)
- オプションのリモコン対応マイクロホンの【1】(モニター)

VOX 機能

【PTT】を押さなくても、VOX 対応オプションのマイクロホンに向かって話すだけで自動送信されます。話をやめると自動で待ち受け状態になります。VOX 機能が ON になると「VOX」が点灯します。

- VOX 送信中に【∧】/【∨】で VOX レベルを変更することもできます（OFF にはできません）。

- ◆ VOX 機能を使用する場合は対応するオプションを使用してください。（《「オプション一覧」 ☛ p.51》で< VOX 対応>と記載されている製品）
- ◆ HMC-3(G) のように VOX 機能が内蔵されているオプションを接続してオプションの VOX 機能を使用するときは、トランシーバーの VOX 機能を OFF にしてください。トランシーバーの VOX 機能を使用するときは HMC-3(G) の VOX 機能を OFF、感度調整ボリュームは最小にしてください。
- ◆ VOX 機能は確認音が鳴っているとき、コールトーンが鳴っているとき、およびスケルチが開いているときは使用できません。
- ◆ 信号を受信しているときは、送信できません。
- ◆ 本機単体でも VOX 機能は動作しますが、周囲の音で誤送信することがあります。オプションを接続してください。

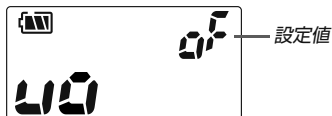
VOXレベル設定

周りの環境や声の大きさによって、VOX 機能使用時のオプションのマイクロホンが感知する音声レベルを設定できます。声に合わせてスムーズに送受信が切り替わるように設定してください。

1 メニューの設定項目選択画面にする

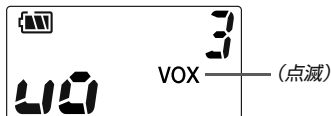
《「メニューの操作」☛ p.26》

2 【MENU】を押して「vo」を選択する

設定値

3 【∧】または【∨】を押して、設定値を選択する

oF(OFF)	VOX 機能は OFF になります。
1 ～ 5	VOX 機能が ON になり、数値が大きいほどマイクロホンの感度が上がります。

● 1 ～ 5 に設定しているときは、VOX レベル設定画面と VOX 遅延時間設定画面《☛ p.38》でマイクロホンに向かって話すと、声の大きさが設定レベルに達すると「VOX」が点滅します。VOX レベル設定の目安にします。（設定画面では送信されません。）

（点滅）

4 【MENU】を押す(1秒以上)

メニューが終了します。

◆ 送信禁止設定《「t-i」☛ p.47》が「on(ON)」のときは、VOX レベルは設定できません。

VOX遅延時間設定

VOX 機能使用時に音声の最後が送信されない場合があります。このような場合は遅延時間を設定すると、話をやめた後設定した時間は送信を継続するため音声が途切れることを防ぐことができます。

1 メニューの設定項目選択画面にする

《「メニューの操作」☛ p.26》

2 【MENU】を押して「vdy」を選択する

3 【∧】または【∨】を押して、設定値を選択する

0.3 秒(03)から 3.0 秒(30)の間で設定します。

03/05/10/15/30	数字が大きいほど遅延時間が長くなります。

4 【MENU】を押す(1秒以上)

メニューが終了します。

◆ VOX レベル設定《「vo」☛ p.37》が「oF(OFF)」のときは、VOX 遅延時間は設定できません。

その他のメニュー設定

バッテリーに関する設定

バッテリーセーブ設定

電池の消耗を防ぐ機能です。信号を受信するか、キー操作するとバッテリーセーブは一時的に解除されます。

1 メニューの設定項目選択画面にする

《「メニューの操作」☛p.26》

2 【MENU】を押して「SAv」を選択する

3 【∧】または【∨】を押して、設定値を選択する

oF(OFF)	バッテリーセーブ機能は動作しません。
on(ON)	待ち受け状態で約５秒間キー操作がないと、バッテリーセーブ機能が働きます。
EC(ECO)	待ち受け状態で約２秒間キー操作がないと、バッテリーセーブ機能が働きます。 表示部に「e」が点灯します。 バッテリーセーブ機能を「EC(ECO)」に設定すると、以下の動作になります。 ● バックライトは点灯しません。 ● ビープ音は鳴りません。

4 【MENU】を押す(1秒以上)

メニューが終了します。

◆ バッテリーセーブ「on(ON)」または「EC(ECO)」設定時は、消費電力を抑える動作を繰り返しているため、受信やVOX 動作時の音声の始めが途切れる場合があります。音声の途切れが気になる場合は、「oF(OFF)」に設定してご使用ください。

◆ バッテリーセーブ機能が働いているときに、同じグループを受信すると、バッテリーセーブ機能は自動的に解除されますが、違うグループを受信している場合は、バッテリーセーブ機能は解除されません。このときに受信信号の確認動作を繰り返すため、「受」が点滅することがあります。

◆ モニター中やオートチャンネルセレクト中は、バッテリーセーブ機能は動作しません。

オートパワーオフ設定

この機能を「on(ON)」に設定すると、1 時間 59 分の間キー操作をしない場合、電源を切り忘れたとみなして警告音を鳴らします。（「ピーピー」が 4回鳴ります。）さらに同じ状態が 1 分間続くと「APo」と点滅表示して自動で電源を切ります。トランシーバーの電源を切り忘れたときの、電池の消耗を防ぎます。

1 メニューの設定項目選択画面にする

《「メニューの操作」☛p.26》

2 【MENU】を押して「APo」を選択する

3 【∧】または【∨】を押して、設定値を選択する

oF(OFF)	オートパワーオフ機能は動作しません。
on(ON)	オートパワーオフ機能が動作します。

4 【MENU】を押す(1秒以上)

メニューが終了します。

◆ モニター中やオートチャンネルセレクト中は、オートパワーオフ機能は動作しません。

バッテリー種別設定

使用する電池の種類を設定します。

1 メニューの設定項目選択画面にする

《「メニューの操作」☛p.26》

2 【MENU】を押して「bty」を選択する

3 【∧】または【∨】を押して、設定値を選択する

Ab	アルカリ乾電池を使用するとき
rC	充電池 UPB-7N または eneloop を使用するとき

4 【MENU】を押す(1秒以上)

メニューが終了します。

◆ 設定値を選択するときは、使用する電池の種類に合った設定をしてください。誤った設定にすると、電池の残量表示が正しく表示されません。

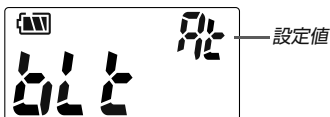
表示に関する設定

バックライト動作設定

表示部照明の点灯条件を設定します。

1 メニューの設定項目選択画面にする

《「メニューの操作」☛p.26》

2 【MENU】を押して「bLt」を選択する

3 【∧】または【∨】を押して、設定値を選択する

oF(OFF)	バックライトは常に消灯します。
At	【PTT】以外のキーを操作したときにバックライトが 5 秒間点灯します。
Ay	キーを操作したときや信号を送信 / 受信するとバックライトが 5 秒間点灯します。
on(ON)	バックライトが常に点灯します。

4 【MENU】を押す(1秒以上)

メニューが終了します。

◆ バッテリーセーブ設定《「SAv」☛p.39》が「EC(ECO)」のときは、バックライト動作は設定できません。

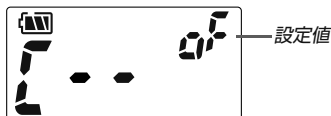
チャンネル非表示設定

チャンネル番号やグループ番号を表示させない設定です。

- この機能を「on(ON)」に設定している場合は、チャンネルを切り替えると、切り替えたチャンネルを 2 秒間表示します。電源を ON にしたときも現在のチャンネルを 2 秒間表示します。

1 メニューの設定項目選択画面にする

《「メニューの操作」☛p.26》

2 【MENU】を押して「C--」を選択する

3 【∧】または【∨】を押して、設定値を選択する

oF(OFF)	チャンネルやグループ番号を表示します。
on(ON)	チャンネルやグループ番号は表示されません。

4 【MENU】を押す(1秒以上)

メニューが終了します。

◆ チャンネル非表示機能を「on(ON)」に設定すると、「秘」,「L」も点灯しません。

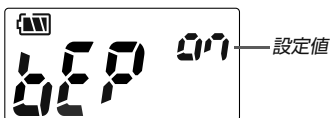
音に関する設定

ビープ音設定

キーを操作したときに鳴る確認音をビープ音といいます。この機能を「oF(OFF)」に設定すると、このビープ音を鳴らさないようにできます。

1 メニューの設定項目選択画面にする

《「メニューの操作」☛p.26》

2 【MENU】を押して「bEP」を選択する

3 【∧】または【∨】を押して、設定値を選択する

oF(OFF)	ビープ音は鳴りません。
on(ON)	ビープ音が鳴ります。

4 【MENU】を押す(1秒以上)

メニューが終了します。

◆ バッテリーセーブ設定《「SAv」☛p.39》が「EC(ECO)」のときは、ビープ音は設定できません。

◆ 以下の警告音、予告音などはビープ音を OFF に設定しても鳴ります。
- ・ 通信時間制限予告音
- ・ オートパワーオフ警告音
- ・ 送信禁止音
- ・ コールトーン
- ・ バッテリー減電圧警告音

スケルチ設定

通常は受信できない弱い信号を受信したいときに、強制的にスケルチ (雑音消去回路) を OFF にして音声を聞く機能です。電波が弱く、聞き取りにくいときに便利です。信号を受信していないときは" ザー " という雑音が出ますので、音量を調整するときの目安にもなります。

1 メニューの設定項目選択画面にする

《「メニューの操作」☛p.26》

2 【MENU】を押して「SqL」を選択する

3 【∧】または【∨】を押して、設定値を選択する

oF(OFF)	常に受信状態になります (常時モニター)。
on(ON)	強い信号のみ受信状態になります。

4 【MENU】を押す(1秒以上)

メニューが終了します。

送信に関する設定

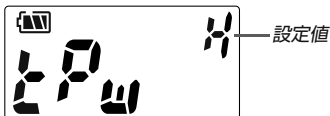
送信パワー設定

レピーターアクセスモードの d1ch ～ d18ch では、送信出力を下げて連続送信することができます。「L」に設定すると送信がローパワーの約 1mW になり、「H」に設定にすると送信がハイパワーの約 10mW になります。

- 運用モードの設定《「mod」☛p.28》を「dP」に設定しておきます。

1 メニューの設定項目選択画面にする

《「メニューの操作」☛p.26》

2 【MENU】を押して「tPw」を選択する

3 【∧】または【∨】を押して、設定値を選択する

L	送信出力を約 1mW にします。
H	送信出力を約 10mW にします。

4 【MENU】を押す(1秒以上)

メニューが終了します。

◆ レピーターアクセスモードの dh1ch ～ dh9ch やシンプレックスモードでは送信出力を下げることはできません。

送信禁止設定

【PTT】を押しても送信させない機能です。トランシーバーを受信専用で使用するときなどに設定します。

1 メニューの設定項目選択画面にする

《「メニューの操作」☛p.26》

2 【MENU】を押して「t-i」を選択する

3 【∧】または【∨】を押して、設定値を選択する

oF(OFF)	送信動作を許可します。
on(ON)	送信動作を禁止します。

4 【MENU】を押す(1秒以上)

メニューが終了します。

PTTホールド設定

通常は送信するときは【PTT】キーを押し続けますが、本機能を「on(ON)」に設定すると、【PTT】キーを一度押せば【PTT】キーを離しても送信が継続します。送信を止めるときはもう一度【PTT】キーを押します。

1 メニューの設定項目選択画面にする

《「メニューの操作」☛p.26》

2 【MENU】を押して「PHd」を選択する

3 【∧】または【∨】を押して、設定値を選択する

oF(OFF)	【PTT】キーを押し続けると送信状態になり、【PTT】キーを離すと待ち受け状態になります。
on(ON)	【PTT】キーを押すと送信状態が継続され、再度【PTT】キーを押すと待ち受け状態になります。

4 【MENU】を押す(1秒以上)

メニューが終了します。

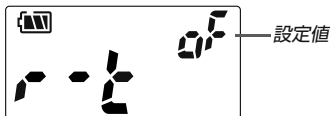
- ◆ ヘッドセットやイヤホンマイクロホンを接続しているときに PTT ホールド機能を使用する場合は、VOX 対応のオプションを使用してください(《「オプション一覧」☛p.51》で< VOX 対応>と記載されている製品)。VOX 対応以外のオプションを使用すると、PTT ホールドで送信しても送信者の音声は相手に聞こえません。
- ◆ 送信禁止設定《「t-i」☛ p.47》が「on(ON)」のときは、PTT ホールドは設定できません。

PTTホールド自動復帰設定

「PTT　ホールド」が「on(ON)」に設定されている場合、通信時間の制限により通信が終了しても、送信休止時間(2 秒)後に自動で送信を再開する機能です。

1 メニューの設定項目選択画面にする

《「メニューの操作」☛p.26》

2 【MENU】を押して「r-t」を選択する

3 【∧】または【∨】を押して、設定値を選択する

oF(OFF)	自動で送信は再開しません。
on(ON)	自動で送信を再開します。

4 【MENU】を押す(1秒以上)

メニューが終了します。

- ◆ 送信休止時間経過後、使用チャンネルに受信信号がある場合は、送信は再開しません。
- ◆ 送信休止時間の間にキー操作があった場合は、送信は再開しません。
- ◆ レピーターアクセスモードで自動復帰する場合は、送信休止時間経過後に再度レピーターにアクセスをします。
- ◆ PTT ホールド設定《「PHd」☛ p.48》が「oF(OFF)」のときは、PTT ホールド自動復帰は設定できません。

リモコンキーの設定

リモコンキー設定

オプションのリモコン対応マイクロホンのリモコンキー【1】、【2】、【3】の動作を設定する機能です。

1 メニューの設定項目選択画面にする

《「メニューの操作」☛p.26》

2 【MENU】を押して「rEm」を選択する

3 【∧】または【∨】を押して、設定値を選択する

oF(OFF)	マイクロホンのリモコンキーは動作しません。
on(ON)	マイクロホンのリモコンキーが動作します。

4 【MENU】を押す(1秒以上)

メニューが終了します。

◆ リモコンキー設定が「on(ON)」のときは、以下の機能が動作します。

- リモコンキー【1】:モニター《☛ p.33》
- リモコンキー【2】:オートチャンネルセレクト《☛ p.30》
- リモコンキー【3】:コールトーン 3 送出《☛ p.34》

その他

オプション一覧

本機用として下記のオプションが用意されています。

UCM-100................コントロールマイクロホン**< VOX 対応>**
（UCM-100 は単体では使用できません。UHS-1、UHS-2、UHS-3 と組み合わせてご使用ください。）

UHS-1 ....イヤーフックタイプイヤホン

UHS-2......................アコースティックチューブイヤホン

UHS-3......................カナルタイプイヤホン

HS-9(G) ....プチホン型イヤホン

EMC-3......................イヤホン付きクリップマイクロホン

EMC-11 ....イヤホン付きクリップマイクロホン

EMC-7 ....イヤホン付きクリップマイクロホン（耳掛けタイプ）**< VOX 対応>**

EMC-5F....................イヤホン付きクリップマイクロホン（マイク感度切り替え付き）**< VOX 対応>**

KHS-21....................ヘッドセット(PTT スイッチ無しのシンプルタイプ)**< VOX 対応>**

KHS-29F.................ヘッドセット（耳掛けタイプ）**< VOX 対応>**

HMC-3(G)................ヘッドセット（感度調整 VOL 付き VOX 機能内蔵）**< VOX 対応>**

SMC-34(G)..............リモコン対応ボリューム付きスピーカーマイクロホン

UPB-7N...................ニッケル水素充電池

UBC-6CR ....充電台 (1 台)

UBC-7SL.................AC アダプター（充電台 1 台用）

UBC-5ML ....AC アダプター（充電台 6 連結用）

SB-4 ....ネックストラップ（セーフティ機構付き）

USC-3(G) ....キャリングケース

◆ ヘッドセットやイヤホン付きクリップマイクロホンを接続しているときに、PTT ホールド機能を使用するときは<VOX 対応>のオプションを使用してください。< VOX 対応>以外のオプションを接続すると、PTT ホールドで送信しても音声は相手に聞こえません。

◆ 本機に使用できるオプション製品が追加されたり、生産が終了することがあります。オプション製品についてはカタログ等を参照してください。

故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に下の表を確認してください。該当する症状がない場合や異常を解決できない場合は、リセットしてください。設定されている内容は全てお買い上げ時の状態に戻ります。《「リセット」☛p.56》

共通

症　状	原　因	処　置	参照ページ
● 電源が入らない ● 表示がすぐ消える ● 表示が点滅して、電源が切れない	電池の容量が低下している	充電池を充電する	--
		電池を交換する	14
● 受信できない ● 音量レベルを上げても音が出ない	グループ番号が違う	グループ番号を相手と同じにする	24
相手と通話できない	運用モードが違っている	相手と同じ運用モードにする	28
	チャンネルかグループ番号が違う	チャンネル、グループ番号を相手と同じに合わせる	22 24
	相手との距離が離れすぎている	通話のできる距離を目安に通話する	10
チャンネルが切り替わらない	キーロックになっている	キーロックを解除する	35
送信ができない	「受」が点灯している	チャンネルを変更するか、「受」が消えるのを待つ	22
	送信禁止がONに設定されている	OFFに設定する	47

症　状	原　因	処　置	参照ページ
表示部の照明が消えない	照明が常時点灯の設定になっている	バックライト動作をAt、AyまたはOFFに設定する	42
電池がすぐ消耗する	照明の常時点灯をよく使う	常時点灯は必要なときだけ使う	42
	バッテリーセーブをOFFに設定している	ONまたはECに設定する	39
● バックライトが点灯しない ● ビープ音が鳴らない ● バックライト動作、ビープ音が設定できない	バッテリーセーブをECに設定している	OFFまたはONに設定する	39
電池の残量表示が正しく表示されない	バッテリー種別設定が正しくない	使用する電池にあった設定をしてください	41
音声が聞き取れない	送信側/受信側いずれか一方のボイススクランブル機能がONになっている	送信側/受信側ともにボイススクランブル機能をONまたはOFFの同じ設定にする	24
何も聞こえないのに「受」が点灯する	グループ番号が設定された状態でスケルチがOFFになっている	スケルチをONに設定する	45

その他

症　状	原　因	処　置	参照ページ
オートチャンネルセレクトが動作しない	グループ番号が設定されていない	グループ番号を設定する	24
	運用モードがレピーターアクセスモード(dP)に設定されている	シンプレックスモード(SP)に設定する	28
メニューの設定画面で設定項目が選択できない	設定項目の設定値により選択できなくなる設定項目があります	----	27

中継器を使用している場合

症　状	原　因	処　置	参照ページ
● 中継器にアクセスできない ● 中継器を設置したが、通話できる範囲が広がらない	**アクセスエラー音が鳴らない** ● 運用モードがレピーターアクセスモードになっていない	レピーターアクセスモード(dP)に設定する	28
中継器にアクセスできない	**アクセスエラー音が鳴る** ● チャンネル番号、グループ番号が中継器の番号と違う	チャンネル番号、グループ番号を中継器の番号と合わせる	22 24
	● 中継器との距離が離れすぎている	通話のできる距離を目安に通話する	10

リセット

リセットすると、設定されている内容は全てお買い上げ時の状態に戻ります。

1 一度電源をOFFにする

2 【∧】と【∨】を押しながら、【⏻】を押して電源をONにする

表示が全点灯します。

3 【∧】、【∨】、【⏻】のいずれかのキーを離す

「SUr」と表示されます。

4 【MENU】を押す

オールリセットして、待ち受け状態になります。

- 【MENU】以外のキーを押した場合は、リセットしないで、待ち受け状態になります。

保証とアフターサービス(よくお読みください)

保証書(別添)

この製品には、保証書を(別途)添付しております。保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間

保証期間は、お買い上げの日より **1 年間** です。

修理を依頼されるときは

「故障かな?と思ったら」(52 ページ)を参照してお調べください。それでも異常があるときは、製品の電源を切って、お買い上げの販売店または弊社通信機サービスセンターにお問い合わせください。(別紙"ケンウッド全国サービス網"をご参照ください。)

修理に出された場合、設定された項目がリセットされる場合がありますので、別途お客様ご自身でお控えくださいますようお願いいたします。また、本機の故障、誤動作、不具合等によって通話などの利用の機会を逸したために発生した損害などの付随的損害につきましては、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

保証期間中は・・・

正常な使用状態で故障が生じた場合、保証書の規定に従って、お買い上げの販売店または弊社通信機サービスセンターが修理させていただきます。
修理に際しましては、保証書をご提示ください。
本機以外の原因(衝撃や水分、異物の混入など)による故障の場合は、保証対象外になります。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後は・・・

お買い上げの販売店または弊社通信機サービスセンターにご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料にて修理いたします。
補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。(補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

持込修理

この製品は持込修理とさせていただきます。

修理料金の仕組み(有料修理の場合は次の料金が必要です。)

技術料: 製品の故障診断、部品交換など故障箇所の修理および付帯作業にかかる費用です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれます。

部品代: 修理に使用した部品代です。その他修理に付帯する部材等を含む場合があります。

送料: 郵便、宅配便などの料金です。保証期間内に無償修理などを行うにあたって、お客様に負担していただく場合があります。

仕様

チャンネル数 ....47 ch
シンプレックスモード : 20 ch
レピーターアクセスモード : 27 ch
使用周波数帯 ....400 MHz 帯
送信出力............................10 mW/1 mW *
電波型式 F3E
低周波出力.........................50mW（8 Ω負荷、10% 歪率時）
電源電圧............................DC 1.5 V
使用温度範囲 ....− 10 ℃～+ 50 ℃
外形寸法 (突起物含まず)
....幅 48 × 高さ 95 × 奥行 26.5 mm
アンテナ長........................69.2mm
本体質量 (重さ)...............約 130 g（別売品 UPB-7N を含む）

* レピーターアクセスモードの d1ch ～ d18ch 設定時のみ有効

※仕様は予告なく変更することがあります。

株式会社 JVCケンウッド

〒 221-0022　神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3-12

- 商品および商品の取り扱いに関するお問い合わせは、JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターをご利用ください。

  フリーダイヤル 0120-2727-87

  発信者番号が非通知の場合は、『0120』の前に『186』を付けてからおかけください。
  ＜電話番号をよくお確かめのうえ、おかけ間違いのないようにご注意ください。＞

  携帯電話・PHS・一部の IP 電話などフリーダイヤルがご利用になれない場合は、

	045-450-8950
ＦＡＸ	045-450-2308
住所	〒 221-0022　神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3-12
受付日	月曜日〜土曜日（祝祭日・弊社休日を除く）
受付時間	月曜日〜金曜日　9：30 〜 18：00
	土曜日　9：30 〜 12：00、13：00 〜 17：30

- 修理などアフターサービスについては、お買い上げの販売店、または最寄りの弊社通信機サービスセンターにご相談ください。(別紙 “ケンウッド全国サービス網” をご参照ください。)

- ユーザー登録 (My-Kenwood) をご利用ください。

  お買い上げいただいたケンウッド商品をご愛用いただくために、弊社ホームページ内でユーザー登録することをおすすめします。

  URL http://jp.my-kenwood.com